JOHANNUS

ヨハネスオルガン

取扱説明書

OPUS 250　　オーパス 250

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ずお守りください。お子様がご使用になる場合は、お子様の安全のために、保護者の方の管理の下、お子様に注意事項を守っていただきますようお願いいたします。

■ 製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。

注意：感電防止のため本体の内部を開けないでください。機器の内部にはお客様が修理／交換出来る部品はありません。点検や修理は必ずお買い求めいただいた販売店、またはお近くの弊社フィールドサポート担当までご依頼ください。

このマークは感電の危険があることを警告しています。

このマークは注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

■ 警告と注意、記号表示について

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。

⃠記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。

⚠ 警告

電源は必ずAC100Vを使う

電圧の異なる電源を使用しないでください。発火の恐れがあります。

付属の電源コードは本機でのみ使用する

付属の電源コード以外を本機で使用しないでください。付属の電源コードを他の機器で使用しないでください。

電源コードを熱器具に近付けたり、無理に曲げたり重い物を載せたりして傷つけたりしない

コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

本機を分解、修理、改造しない

本機を落としたり、強い衝撃を加えない

怪我および破損の恐れがあります。

この機器の上に花瓶等の液体の物を置いたり、水にぬれるような使い方をしたりしない

故障・感電・発火の原因になります。

水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

感電の原因になります。

異常が起こった場合、故障した場合は即座に電源スイッチを切り、コンセントからプラグを抜く

異物を入れない

本機の内部に異物を入れないようにする

水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

照明用のロウソクなどの裸の火を機器の上に置かない

使用禁止

本機を次のような所では使用しない

- **窓際など直射日光の当たる場所**
- **暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所**
- **戸外など極端に温度の低い場所**
- **極端に湿度の高い場所**
- **砂やホコリの多い場所**
- **振動の多い場所**
- **本体の放熱を妨げる様な周囲が囲まれた場所**

故障の原因になります。

⚠ 注意

電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

プラグを抜く

落雷の恐れのある時や長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

感電・火災及び故障の原因になる恐れがあります。

電源を切る

コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

本機や接続機器の故障の原因になります。

指をはさまれないよう注意

鍵盤蓋で手や指をはさまないよう注意する

鍵盤蓋はゆっくり取り扱ってください。勢いよく動かすと手や指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。

ぶつからない

本機のカド部でけがをしないよう注意する

頭等をぶつけると、けがの原因になります。

手や足を入れない

鍵盤蓋やペダルの下等、本機の隙間に手や足を入れない

はさんだり擦れる恐れがあり、けがの原因になります。

持ち運びは2人で行う

電源プラグは直ぐに抜くことが出来る状態にしておく

この機器は電源スイッチを切った状態でも主電源から完全に遮断されているわけではありません。完全に遮断するためには、電源プラグを抜いてください。プラグは直ぐに抜くことが出来る状態にしておいてください。

お子様の行動に十分注意してください

お子様が使用する場合や周囲にお子様のいる場所での使用においては、大人の監視のもと十分注意し使用してください。

上に乗らない

本機の上に乗ったり、重い物を乗せたりしない

変形したり、倒れる恐れがあり、故障やけがの原因になります。

使用しない

イスは次のように使用しない

- **イスを不安定な場所に置かない**
- **イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない**
- **イスには2人以上で座らない**
- **イスに座ったまま高さ調節をしない（調節機能付きの場合）**
- **ネジの緩んだイスに座らない**

イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。

不安定な場所に置かない
怪我や破損の恐れがあります。

タコ足配線禁止

ヘッドホンは大音量で長時間使用しない
聴力低下の原因になる恐れがあります。

ディスプレイの表面に爪や鋭利なもの、硬いものなどを強く押し付けない
傷の発生や破損の原因となります。

強く押す、たたくなど故意に強い衝撃をディスプレイに与えない
傷の発生や破損の原因となることがあります。

お手入れについて

本体	乾いた柔らかい布で拭いてください。
ベンジンやシンナーで本機を拭かない	色落ちや、変形の原因になります。清掃するときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。

* お手入れの際は、電源コードを抜くこと。

保証書について

本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。
保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管ください。

銘板について

器種名、製造番号等の情報は、製品下面の銘板に記載されています。

修理について

万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡ください。弊社連絡先は取扱説明書の裏表紙に記載してあります。

目次

1 安全・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.1 安全説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.2 楽器の使用上に関する記号・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.3 この説明書で使用する記号・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.4 運搬と保管・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

2 設置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2.1 設置と接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2.1.1 オルガンの設置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2.1.2 譜面台の設置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2.2 スライド蓋の開閉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2.3 電源オン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

3 オルガンの説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
3.1 構成部分の外観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
3.2 パネル部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
3.3 周辺機器との接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
3.4 外部接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

4 操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
4.1 ボリュームコントロール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
4.2 エクスプレッションペダル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
4.3 リバーブ（残響）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
4.4 オルガン様式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
4.5 ストップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
4.6 カプラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
4.7 アクセサリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
4.8 プリセットメモリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
4.9 キャプチャーメモリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
4.10 トランスポーズ(移調)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
4.11 クレッシェンドペダル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
4.12 クイックアクセス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
4.12.1 クレッシェンドペダルのプログラムモード・・・・・・・・・・・・・13

5 ヨハネスメニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
5.1 クレッシェンド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
5.2 データダンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
5.3 デモ曲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
5.4 ディスプレイコントラスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
5.5 エクスプレッションペダル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
5.6 キーボード設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
5.7 キーボリューム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
5.8 MIDI（ミディ）設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
5.9 リセット手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
5.10 リバーブ設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
5.11 スタートアップ時の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
5.12 音律・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
5.13 チューニング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
5.14 バージョン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

6 メンテナンス、トラブルシューティング、保証・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
6.1 メンテナンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
6.1.1 キャビネットのお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
6.1.2 鍵盤のお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
6.2 不具合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
6.3 保証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

7 MIDIインプリメンテーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
7.1 MIDIインプリメンテーションチャート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
7.2 MIDI仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

1 安全

1.1 安全説明

- オルガンを安定した水平面に置きます。
- 100V電源にコンセントを挿します。
- 使用しない時はスイッチを切ってください。
- 湿気の多い場所に置かないでください。
- 液体に濡らさないでください。
- 取扱説明書をお読みいただき、その説明と予防策に従ってください。
- 取扱説明書はオルガンと一緒に保管してください。
- このオルガンはヨハネス社が認めた技術者のみが修理できます。
- このオルガンは静電気に敏感な部品で構成されています。
- ヨハネス社に認められていない技術者が修理した場合、保証が打切られます。

1.2 楽器の使用上に関する記号

注意

感電に注意

静電気に弱いため、取扱い注意

1.3 この説明書で使用する記号

注意または重要な情報

注記

1.4 運搬と保管

オルガンを運んだり、保管するときは次の点に注意してください。

1. 運ぶ前に、オルガンから譜面台と足鍵盤を取り外してください。
2. 相対湿度が40%から60%の場所で保管してください。

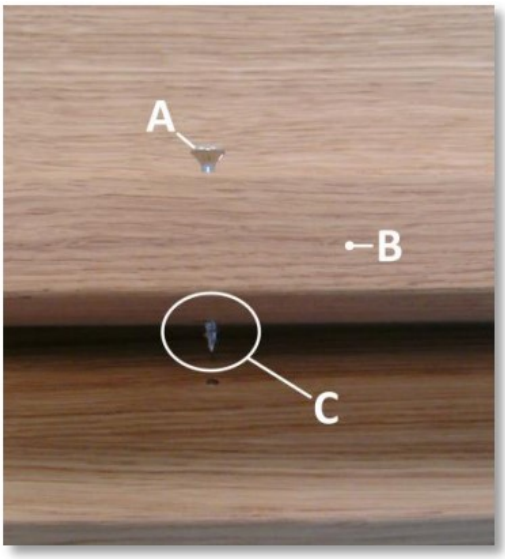
2 設置

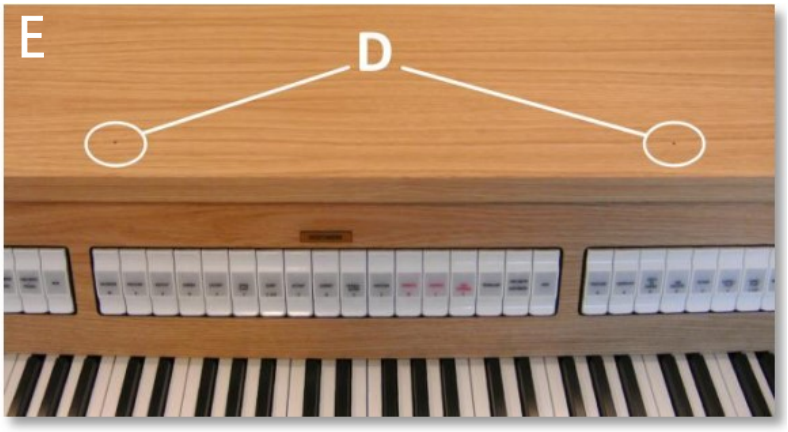
2.1 設置と接続

2.1.1 オルガンの設置

1. しっかりした水平面上に置きます。
2. オルガンの天板上に、譜面台(**A**)をセットします。 2.1.2項(5ページ)を参照してください。
3. オルガンをわずかに後方に傾け、足鍵盤(**D**)をオルガンの下にすべり込ませてください。
4. オルガンを足鍵盤の上にセットします。
5. オルガン椅子(**C**)を足鍵盤(**D**)をまたいで置きます。
6. 電源電圧にオルガンの(規格)電圧が一致していることを確かめてください。
7. 電圧は棚板下の製造表示シール(**B**)で確認できます。

2.1.2 譜面台の設置





1. 譜面台上で、付属の丸皿木ネジ(**A**)を譜面台の楽譜受け棒(**B**)に回しながら差し込み、木ねじの先が楽譜受け棒(**B**)の下から2mmほど顔を出すまで(**C**)ねじ込みます。
2. オルガンの天板(**E**)の上で、譜面台を固定するための先穴(**D**)の位置に、譜面台にねじ込んだ木ねじの先を合わせて譜面台を位置決めします。
3. 譜面台をプラスドライバーでしっかり固定します。電動ドライバーの使用はネジ頭がつぶれるので、お勧めしません。

2.2 スライド蓋の開閉

このオルガンには錠付きの木製スライド式鍵盤蓋(スライド蓋)で鍵盤部を閉じることができます。錠は譜面台の後ろ側にあります。

蓋を開けるとき

- 錠に鍵を挿しこんでください。
- 鍵を反時計回りに四分の一ほど回します。錠が飛び出てきます。
- スライド蓋を上側にスライドさせると蓋が開きます。

> ⚠ **蓋で閉じられてしまう空間内に鍵を放置しないでください。蓋は両手で持ってゆっくり開け閉めしてください。いきおいよく閉めると、指をはさみ、ケガの原因になります。**

蓋を閉めるとき

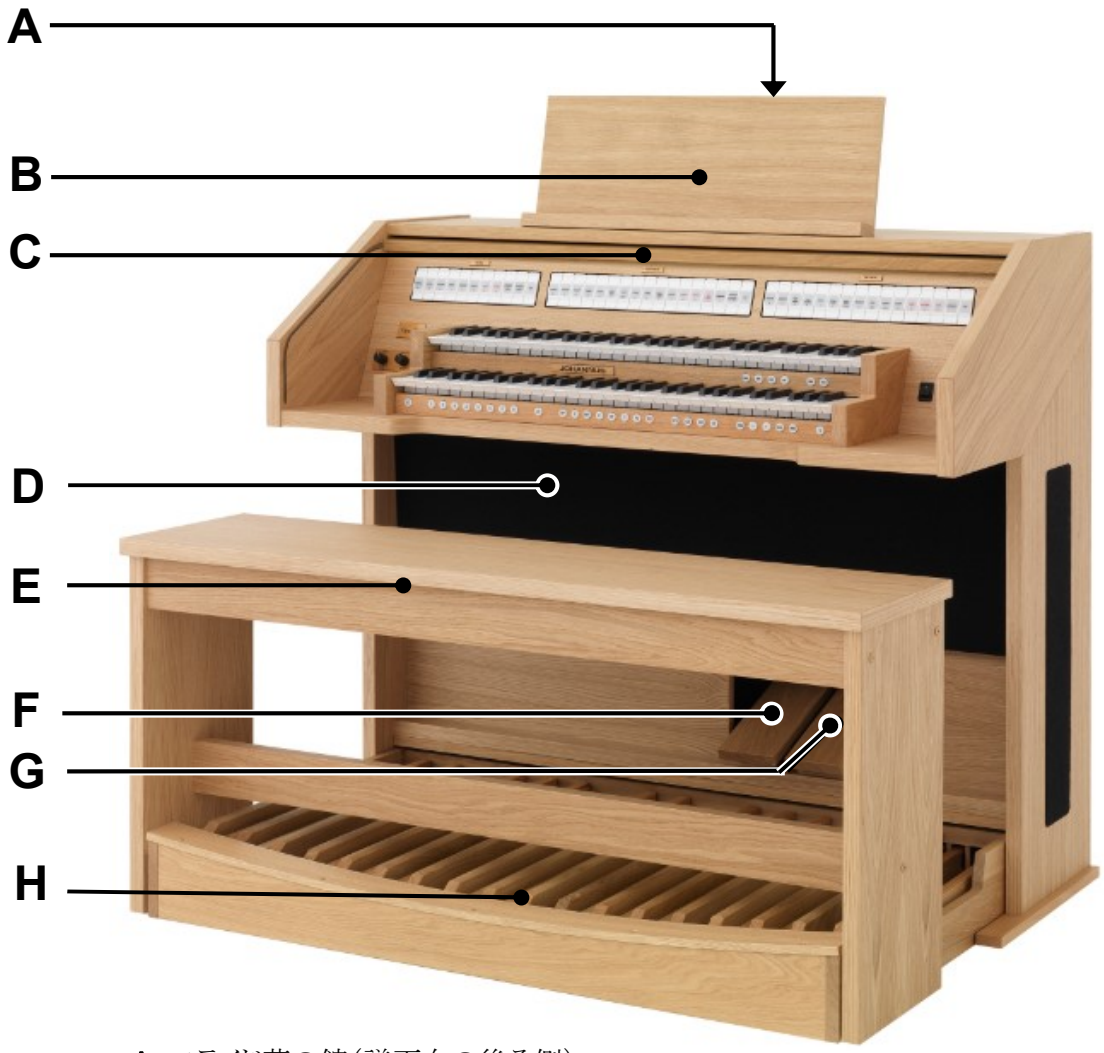
- スライド蓋を下にスライドさせてください。
- スライド蓋の錠の上側を押し込みながら、鍵を時計回りに四分の一だけ回転させてください。

2.3 電源オン

オルガンの手鍵盤の右側にある ON/OFF ボタンでオルガンの電源を ON にします。
数秒ほどお待ちください。制御機能の開始とセッティングの開始に時間がかかります。
0 ボタンと標準設定のボタンが点灯します。現在設定されている状況がディスプレイに現れます。

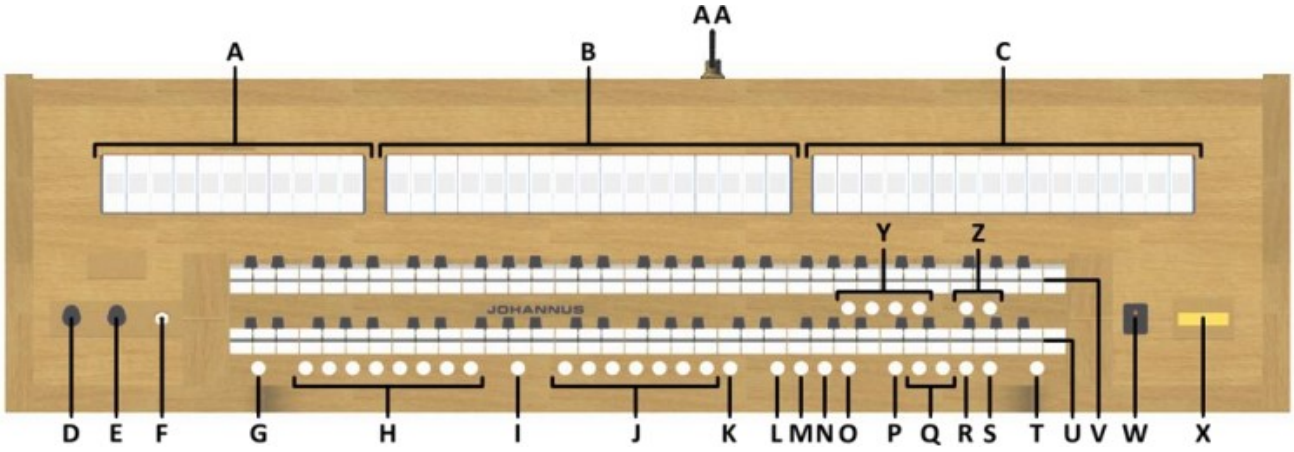
3 オルガンの説明

3.1 構成部分の外観



A スライド蓋の錠(譜面台の後ろ側)
B 譜面台
C スライド蓋
D 内蔵スピーカー
E オルガン椅子
F スウェルペダル
G クレッシェンドペダル
H 足鍵盤

3.2 パネル部



A ペダルストップ，§ 4.5
B グレートストップ，§ 4.5
C スウェルストップ，§ 4.5
D オルガンボリューム，§ 4.1
E カテドラル(残響)ボリューム，§ 4.1
F ヘッドフォン端子，§ 3.4
G セット，§ 4.9
H キャプチャーメモリー，§ 4.9
I CH：コーラス，§ 4.7
J プリセットメモリー，§ 4.8
K RO：リードオフ，§ 4.7
L S/S：オール･ｽｳｪﾙｽﾞ･ﾄｩ･ｽｳｪﾙ，§ 4.7
M CR：クレッシェンド，§ 4.11
N MB：マニュアルバス，§ 4.6
O CF：カントゥスフィルムス，§ 4.6
P TRANS.：トランスポーズ(移調)，§ 4.10
Q − and + ボタン，§ 5
R ENTER：エンター，§ 5
S MENU：メニュー，§ 5
T 0：リコール/リセット，§ 4.7
U グレート鍵盤
V スウェル鍵盤
W 電源スイッチ，§ 2.2
X 液晶ディスプレイ，§ 5
Y オルガン様式，§ 4.4
Z オルガン様式バリエーション，§ 4.4
AA 錠付き木製ロールカバー，§ 2.2

3.3 周辺機器との接続

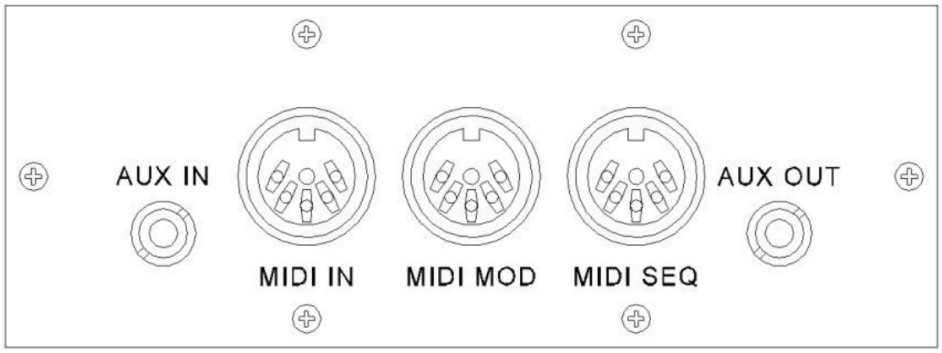
オルガンに関連機器（例えば、MIDI機器）を接続できます。

> ⚠ 周辺機器に関しては、その周辺機器メーカーのマニュアルに従ってください。

1. オルガンと関連機器のスイッチをオフにします。
2. 関連機器をオルガンに接続します。
3. 関連機器のスイッチをオンにします。
4. オルガンのスイッチをオンにします。

3.4 外部接続

外部接続端子は手鍵盤の下面の左側にあります。



MIDI IN: 他のMIDI機器からMIDI信号を受信するための入力端子です。

MIDI MOD: プログラマブルMIDIストップの出力端子です。モジュールや拡張音源を接続します。

MIDI SEQ: シーケンサーやパソコンに接続するMIDI出力端子です。

AUX IN: 外部機器をオルガンのアンプに通して鳴らすためのステレオオーディオ入力端子です。
例えばMIDI MOD端子に接続した拡張音源などを内蔵スピーカーで鳴らすことができます。

AUX OUT: アンプやレコーダーなどの外部デバイスを接続するステレオオーディオ出力端子です。

PHONES: 手鍵盤の左側にヘッドフォン用のコネクターがあります。このコネクターはインピーダンス値が30オームかそれ以上のものに適しています(ヘッドフォンの仕様を確認して下さい)。

ヘッドフォンをPHONESジャックに接続すると、オルガンのスピーカーからの音は自動的に消えます。

4 操作

4.1 ボリュームコントロール

オルガン: オルガン全体の音量ボリューム調節はオルガンボリュームつまみを回して行います。
「3.2パネル部(7ページ)」の図Dの部分を参照してください。

カテドラル: リバーブ(残響)のボリューム調節はカテドラルボリュームつまみを回して行います。
「3.2パネル部(7ページ)」の図Eの部分を参照してください。

4.2 エクスプレッションペダル

標準バージョンのオルガンにはエクスプレッションペダルは2つあります。ひとつはスウェルのためのスウェルペダルに設定され、もうひとつはクレッシェンドペダルに設定されています。ヨハネスメニューを使ってエクスプレッションペダルの機能は変更することができます。「5.5 エクスプレッションペダル」(17ページ)を参照してください。

スウェルペダルとして設定されたエクスプレッションペダルを使用して、ストップのボリュームに加えて音色をも変化させることができます。これによって、パイプオルガンのスウェルボックスシャッターの効果を擬似的に再現することができます。

4.3 リバーブ（残響）

このオルガンにはASR12デジタル残響効果システムが搭載されています。オルガン音に無段階で調節できる残響音を付加し空間的な広がりを作り出します。CATHEDRALボリュームノブを回して、リバーブボリュームを調整してください。

リバーブの長さについては、ヨハネスメニューを使って設定ができます。「5.10 リバーブ設定」(24ページ)を参照してください。

以下の12のリバーブタイプがオルガン様式ごとにヨハネスメニュー内から設定できます。

Abbey Church	修道院の教会	Marble Room	大理石の部屋
Basilica	バジリカ風の教会	Music Room	音楽室
City Cathedral	市の大聖堂	Palace Hall	宮殿のホール
Concert Hall	コンサートホール	Royal Auditorium	王立音楽堂
Hill Church	丘の教会	Town Church	町の教会
Marble Church	大理石の教会	Village Chapel	村の教会

4.4 オルガン様式

このオルガンには4種類のオルガン様式、すなわちロマンティック(ROM)、シンフォニック(SYM)、バロック(BAR)、ヒストリック(HIS)があります。また、各スタイルごとに3種類のバリエーション、すなわち標準、ソロ(SOLO)、トリオ(TRIO)があります。これらを選ぶには、(ROM)、(SYM)、(BAR)、(HIS)のいずれかのボタンを押してスタイルを選び、更に(SOLO)または(TRIO)のボタンを押してバリエーションを選びます。バリエーションボタンが点灯していないときは標準が自動的に選ばれます。ソロ(SOLO)はトランペット系の音色が強調されます。トリオ(TRIO)はフルート系の音色が強調されます。

4.5 ストップ

ストップは、タブレットスイッチ、プリセットメモリーボタン、キャプチャーメモリーボタン、クレッシェンドペダルで作動させます。タブレットスイッチのランプが点灯しているストップが発音します。

ストップは、次の4つのグループに分かれています。
Pedal: ペダル鍵盤（足鍵盤）に関するストップです。
Great: グレート鍵盤（下鍵盤）に関するストップです。
Swell: スウェル鍵盤（上鍵盤）に関するストップです。

4.6 カプラー

マニュアルカプラー:

SWELL – GREAT: スウェル鍵盤の全鍵をグレート鍵盤に連結します。

ペダルカプラー:

GREAT – PEDAL: グレート鍵盤の全鍵をペダル鍵盤に連結します。
SWELL – PEDAL: スウェル鍵盤の全鍵をペダル鍵盤に連結します。

マニュアルバス: MB

ペダルの単音をグレート鍵盤に連結します。グレート鍵盤で弾いている一番低い鍵盤だけがペダルからグレートに連結されます。
もし和音を弾いていて、一番下の鍵盤を離したときはマニュアルバス機能により連結していたペダル音は、次に低い鍵が押されるまで消音します。これは低音のジャンピングを防ぐためです。
（MB)ボタンで、マニュアルバスを作動させます。

低音の重複発音を防ぐために、足鍵盤を使用されている間はマニュアルバスをオフにしておくことをお勧めします。

カントゥスフィルムス: CF

カントゥスフィルムスとはラテン語で「定旋律」、またはオルガン用語で「単音色」または「旋律カプラー」という意味です。スウェルの単音をグレート鍵盤に連結します。グレート鍵盤で弾いている一番高い鍵盤だけがスウェルからグレートに連結されます。
このように、グレート鍵盤を弾くだけでスウェル上のソロレジストレーションの旋律が聞こえます。
もし和音を弾いていて、一番上の鍵盤を離したときはカントゥスフィルムス機能により連結していたスウェル音は、新しく高い鍵が押されるまで消音します。これは高音のジャンピングを防ぐためです。
（CF)ボタンで、カントゥスフィルムスを作動させます。

カントゥスフィルムスは上記機能のため、カプラーSWELL-GREATと同時に使わないことをお勧めします。

4.7 アクセサリー

コーラス（CH):

コーラスは僅かにオルガンストップの調律をずらし、音に広がりを与え、生き生きとさせる効果です。
（CH）ボタンでコーラスを作動させます。

リードオフ (RO):

リードオフは全リードストップを一斉に消す効果です。このボタンがオンの間、リードストップは全て発音しません。このボタンをオフにすると、ボタンを押す前のリードストップの状態に戻ります。

(RO)ボタンでリードオフを作動させます。

オール・スウェルズ・トゥ・スウェル (S/S):

オール・スウェルズ・トゥ・スウェルは、通常スウェル鍵盤のみのスウェルペダル機能をオルガン全体の機能に変更します。

> **もしエクスプレッションペダルがスウェルのスウェルペダルとして割り当てられていなければ、S/Sボタンは有効となりません。**

リコール/リセット (0):

(0)ボタンで2通りのレジストレーションのキャンセルができます。

1. 短く(0)ボタンを押す: 直前の操作をキャンセルします。
2. やや長めに(0)ボタンを押す: 全てのレジストレーションをキャンセルします。

4.8 プリセットメモリー

プリセットメモリーを呼び出すには(PP)・・・(T)、(PL)ボタンを押します。これら7つのメモリーは、予め工場出荷時にプリセットされており、静かなピアニシモから強いトゥッティやクラシックプレナムまで、適切なストップの組合せをメモリーしています。

プリセットメモリーの呼び出し:

プリセットメモリーボタン(PP)・・・(T)、または(PL)を押します。発音するストップのランプが点灯します。

プリセットメモリーの変更:

> **プリセットメモリーの変更をすると、それまでに記憶されていたセッティングは失われますのでご注意ください。**

> **プリセットメモリーにはどのようなセッティングもできますが、ボタンの文字に合ったセッティングをお勧めします。例えば(PP)ボタンにはフォルテのセッティングではなく、ピアニシモ音色をセッティングすることをお勧めします。**

1.希望するストップを選びます。

2.(SET)ボタンを押しながら希望するプリセットメモリーボタン(PP・・・T PL) のいずれかを押します。

3.(SET)ボタンを離します。

4.9 キャプチャーメモリー:

メモリーを使えば、ボタン一押しで、レジストレーションを再現できます。メモリーには、75のレベルがあります。これらのレベルはディスプレイに(Mem:...)と表示されます。各レベルにそれぞれ8個(1～8のボタン)のメモリーがあります。600のキャプチャーメモリーが空きの状態で用意されていて、演奏者がプログラムできるようになっています。

キャプチャーメモリーの設定:

> ⚠ キャプチャーメモリーの変更をすると、それまでに記憶されていたセッティングは失われますのでご注意ください。

1. 希望するストップを選びます。
2. (-)と(+)ボタンを使ってメモリーするレベル(1～75)の1つを選びます(ディスプレイに表示されます)。
3. (SET)ボタンを押しながら、希望する番号のボタン(1～8)を押します。
4. (SET)ボタンを離します。

キャプチャーメモリーの呼び出し:

1. (-)と(+)ボタンを使って、ディスプレイ表示のレベル (1～75) を選びます。
2. 希望する番号のボタン(1～8)を押します。発音するストップのランプが点灯します。

4.10 トランスポーズ (移調)

トランスポーズは音程を半音ずつ (-8から+8の範囲で)移調します。トランスポーズの設定はディスプレイで確認できます。(Tr: …)と表示されます。

1. (TRANS)ボタンを押します。
2. (-)と(+)ボタンを使って、ピッチを設定します。
3. 移調を記憶させる場合は、(TRANS)ボタンが点灯している間に(SET)ボタンを押します。

4.11 クレッシェンドペダル

クレッシェンドペダルを使うことで、とても静かなピアニッシモから非常に大きなトゥッティまで、20 のレジストレーションを段階的に有効にすることができます。初期設定されている 20 段階のレジストレーションは変更することができます。「5.1 クレッシェンド」(14 ページ)を参照してください。

クレッシェンドペダルの有効化

クレッシェンドペダルが有効になっていない場合、ディスプレイに「Cr : - -」と表示されます。

(CR)ボタンを使って、クレッシェンドペダルを有効にします。ディスプレイにはその時点で有効になっているステップが表示されます。

第二スウェルペダルとしてのクレッシェンドペダル

クレッシェンドペダルは、スウェルペダルとしても割り当てることができます。「5.5 エクスプレッションペダル」(17 ページ)を参照してください。

もしクレッシェンドペダルが第二スウェルペダルとして設定された場合、元のクレッシェンドペダルの全機能が無効になります。

4.12 クイックアクセス

クイックアクセスは、オルガンのある特定の機能を簡単に呼び出す機能です。

4.12.1 クレッシェンドペダルのプログラミングモード

エクスプレッションペダルがクレッシェンドペダルとして設定されていない場合、この機能は使うことができません。

(ENTER)ボタンと(CR)ボタンを同時に押すと、クレッシェンドペダルのプログラミングモードに入ります。
この後の説明については、「5.1 クレッシェンド」（14 ページ）の手順 4 以降を参照してください。

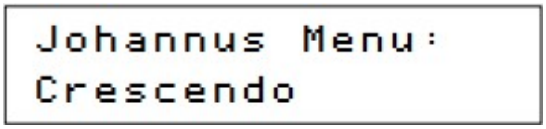
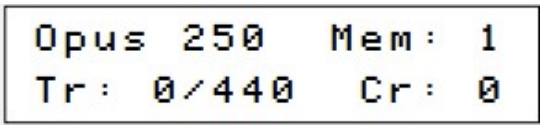
5 ヨハネスメニュー

ヨハネスメニューでいくつかの機能が設定できます。
(MENU)ボタンを押すと、ディスプレイに(Johannus Menu :)が表示されます。(−)と(+)ボタンを操作して機能を探し、決定する場合は、(ENTER)ボタンを押します。メニューのキャンセルや前の段階に戻るには(MENU)ボタンを押します。ヨハネスメニューの中にある機能を以下に挙げます。

項目		操作説明
Crescendo	クレッシェンド	§ 5.1
Datadump	データダンプ	§ 5.2
Demo Songs	デモ曲	§ 5.3
Display Contrast	ディスプレイのコントラスト	§ 5.4
Expression Pedals	エクスプレッションペダル	§ 5.5
Keyboard Config	キーボード設定	§ 5.6
Key Volumes	キーボリューム	§ 5.7
MIDI Config	MIDI 設定	§ 5.8
Reset Procedures	リセット手順	§ 5.9
Reverb Settings	リバーブの設定	§ 5.10
Startup Settings	スタートアップ時の設定	§ 5.11
Temperaments	音律	§ 5.12
Tuning	チューニング	§ 5.13
Version	バージョン	§ 5.14

5.1 クレッシェンド

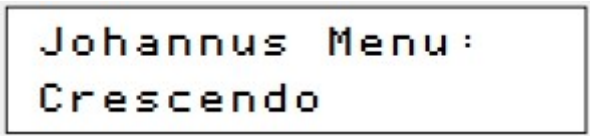
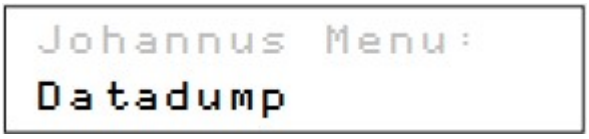
クレッシェンドペダルは20のプリセットされたレジストレーションから成ります。これらのレジストレーションは非常に静かなピアニシモから非常に大きなトゥッティまでの設定です。これらのレジストレーションは変更できます。

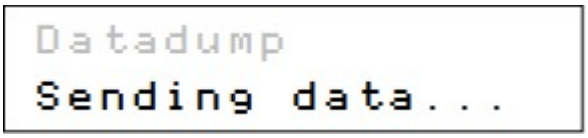
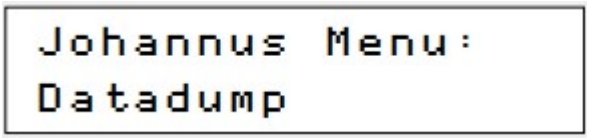
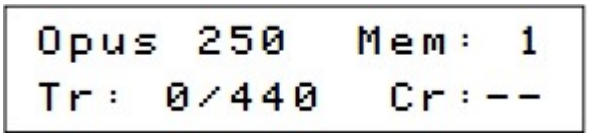
クレッシェンドペダルのステップ 0 は変更ができません。	
1. (MENU)ボタンを押します。	
2. (－)(＋)ボタンを使って画面上の「Crescendo」機能を選びます。	
3. (ENTER)ボタンを押します。クレッシェンドペダルの最初のステップがディスプレイ上に表示されます。	
4. (－)(＋)ボタンを使って変更すべきステップを選びます。(右図はStep 5の場合の例)	
5. レジストレーションを変更し、(ENTER)ボタンを押して新しいレジストレーションをオルガン内部のメモリーに保存します。	
6. クレッシェンドペダルの設定を更に行う場合は、上記4.と5.の操作を繰り返します。	
7. (MENU)ボタンを3回押して、ヨハネスメニューを出ます。	

5.2 データダンプ

データダンプは、オルガンから記録媒体(例えば、シーケンサー)に、MIDI SEQ端子から信号を送り出す操作です。「3.4 外部接続」(8ページ) を参照してください。

a. オルガンからデータを送るとき

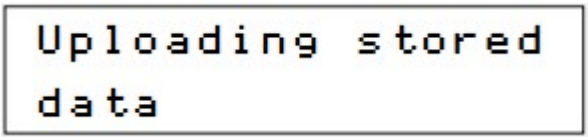
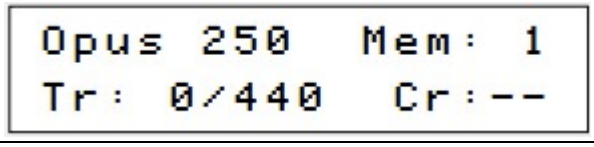
1. (MENU)ボタンを押します。	
2. (－)(＋)ボタンを使って画面上の「Datadump」機能を選びます。	

3. (ENTER)ボタンを押します。「Press ENTER」の文字がディスプレイ上に表示されます。	
4. シーケンサーなどのデータ記録媒体が正しく接続されていることを確認してください。	
5. (ENTER)ボタンを押します。データ送信が開始されると、「Sending data…」の文字がディスプレイに表示されます。	
ディスプレイに「Sending data」の文字が表示されているときは オルガンを操作しないでください。	
6. データダンプが完了すると、メインメニューがディスプレイ上に表示されます。	
7. (MENU)ボタンを押してヨハネスメニューから出ます。	

b. オルガンにデータをアップロードするとき

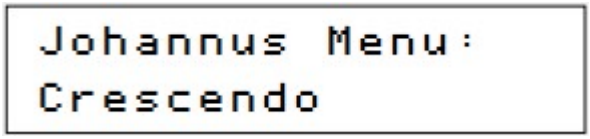
データファイルの受け取りはヨハネスメニューに関係なく、オルガンの電源が入っている時はいつも受け取ることができます。但し、デモソング演奏中は受け取ることができません。

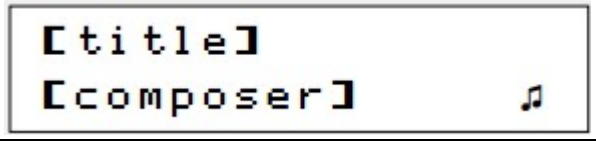
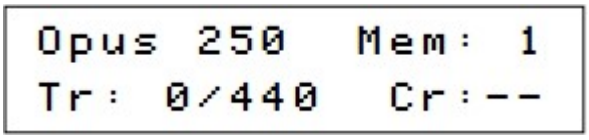
本機から記録されたデータファイルのみアップロードできることに留意してください。
別の楽器からのデータファイルをアップロードすると誤作動する恐れがあります。

1. 先に記録したデータファイルが入った、シーケンサーなどのデータ記録媒体が正しく接続されていることを確認してください。	
2. シーケンサー上でデータファイル送信を開始してください。データファイルが受信されているというメッセージがオルガンのディスプレイに表示されます。	
3. アップロードが完了すると、ディスプレイにメイン画面が自動的に表示されます。	

5.3 デモ曲

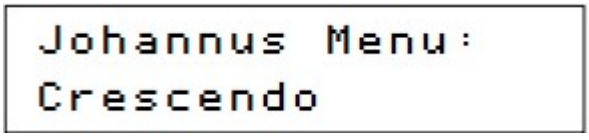
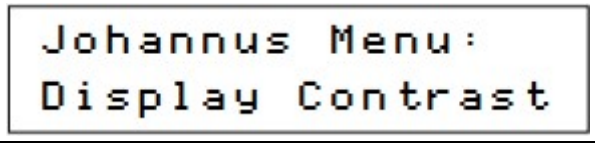
このオルガンには内部に12曲のデモ曲が用意されています。

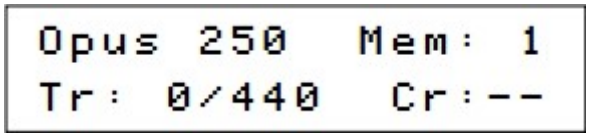
1. (MENU)ボタンを押します。	

2. (－)(＋)ボタンを使って画面上の「Demo Songs」機能を選びます。	
3. (ENTER)ボタンを押します。最初のデモ曲のタイトルがディスプレイ上に表示されます。	
4. (－)(＋)ボタンを使って12曲の中から1曲を選びます。	
5. (ENTER)ボタンを押してデモ曲を決定します。	
6. (－)(＋)ボタンを使って、1曲のみ再生する場合は「Play one demo」を、デモ全曲を再生する場合は「play all demo's」を選びます。	
7. (MENU)ボタンを押して、選んだデモ曲を再生します。デモ曲のタイトルと作曲者名がディスプレイ上に表示されます。	
デモ曲の再生中は、以下の操作以外は機能しません。 **a. (0)ボタン: デモ曲の再生停止** **b. オルガンボリュームノブ: オルガンの音量調整** **c. カテドラル(リバーブ)ノブ: リバーブのボリューム調整**	
8. 再生後は(MENU)ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

5.4 ディスプレイコントラスト

ディスプレイの表示を調整します。

1. (MENU)ボタンを押します。	
2. (－)(＋)ボタンを使って画面上の「Display Contrast」機能を選びます。	
3. (ENTER)ボタンを押します。現時点でのコントラストレベルの値がディスプレイ上に表示されます。	
4. (－)(＋)ボタンを使ってコントラストレベル値を選びます。	
5. (ENTER)ボタンを押して値を決定し、メインメニューに戻ります。	

6. (MENU)ボタンを押して、ヨハネスメニューを出します。	

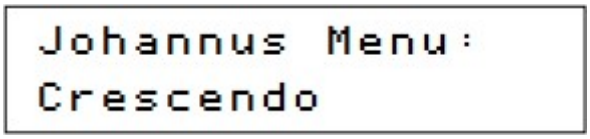
5.5 エクスプレッションペダル

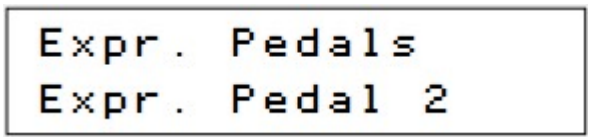
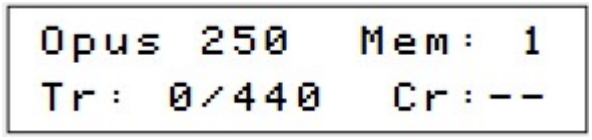
このオルガンはPEPC™を装備しています。PEPC™とは、「プログラム可能なエクスプレッションペダルの設定」のことで、この機能はそれぞれのエクスプレッションペダルを自分独自の設定にすることができます。
エクスプレッションペダルには2つの異なったタイプがあります。

スウェルペダル: ボリュームの増減により強弱をつけるペダルです。パイプオルガンでは、スウェルボックスのシャッターの開閉で実現している機能です。「4.2 エクスプレッションペダル」(9ページ)を参照してください。

クレッシェンドペダル: ストップ数の増減により強弱をつけるペダルです。「4.11 クレッシェンドペダル」(12ページ)を参照してください。

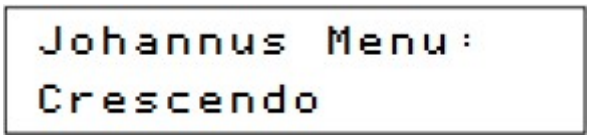
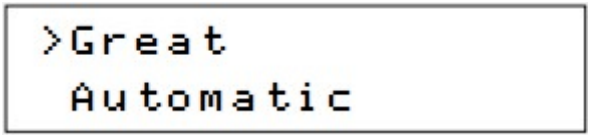
a. 1つのエクスプレッションペダルには、複数パートのスウェルペダル機能を同時に設定可能です。
b. 1つのパートは同時に1つのエクスプレッションペダルにのみ設定可能です。
c. 1つのエクスプレッションペダルには、スウェルペダルとクレッシェンドペダルの同時設定はできません。

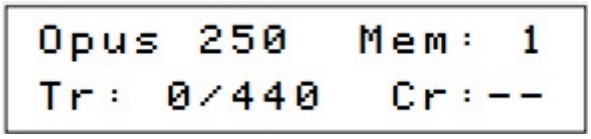
1. (MENU)ボタンを押します。	
2. (−)(+)ボタンを使って画面上の「Expr. Pedals」機能を選びます。	
3. (ENTER)ボタンを押します。第一エクスプレッションペダルがディスプレイ上に表示されます。	
4. (−)(+)ボタンを使って変更したいペダルを選びます。ここでは、例としてPedal 2を選びます。	
5. (ENTER)ボタンを押すと、ディスプレイ上に設定の内容が表示されます。 ・Gt/Pd: グレートとペダル用のスウェルペダル ・Sw: スウェル用のスウェルペダル ・Cresc: クレッシェンドペダル	
6. (−)(+)ボタンを使って変更したい設定を選びます。ここでは、例としてSwを選びます。	
7. (ENTER)ボタンを押します。カーソルが現在の設定の場所に飛びます。	

8. (－)(＋)ボタンを使って変更したい設定に変更します。ここでは、例としてNoを選びます。	
9. (ENTER)ボタンを押して確定します。カーソルが左に移ります。	
10. 他の設定を変更する場合は、上記6. から9. までを繰り返し、変更が完了すれば(MENU)ボタンを押してエクスプレッションペダルメニューに戻ります。	
11. エクスプレッションペダルの他の設定を行う場合は、上記4. から10. までを繰り返し、変更が完了すれば(MENU)ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

5.6 キーボード設定

キーボード設定機能は手鍵盤の働き(反応)を設定します。

1. (MENU)ボタンを押します。	
2. (－)(＋)ボタンを使って画面上の「Keyboard Config」機能を選びます。	
3. (ENTER)ボタンを押します。グレート鍵盤の現在の設定がディスプレイ上に表示されます。	
4. (－)(＋)ボタンを使って、「Great」か「Swell」か、変更したい鍵盤を選びます。	
5. (ENTER)ボタンを押すと、カーソルがディスプレイ上の二行目に移ります。	
6. (－)(＋)ボタンを使って希望する手鍵盤の設定を選びます。 ・Automatic： 手鍵盤は「High」にセットされています。プログラムマブルMIDIストップを有効にした場合には自動的にVelocityに設定されます。 ・High： 鍵盤の発音位置が浅くなります。 ・Low： 鍵盤の発音位置が深くなります。 ・Velocity： 発音はタッチに反応します。	

7. (ENTER)ボタンを押します。手鍵盤設定がメモリーに保存され、カーソルがディスプレイの一行目に戻ります。	
8. 他の設定を行う場合は、上記4. から7. までを繰り返し、変更が完了すれば、(MENU)ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

5.7 キーボリューム

キーボリューム機能は、各ストップのキーボリュームを調整することができます。

キーボリューム機能は、次のサブ機能から成っています。

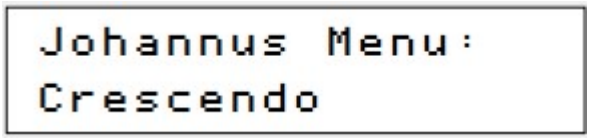
a. 調整

b. 1ストップをリセット

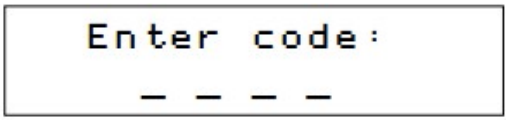
c. 全ストップをリセット

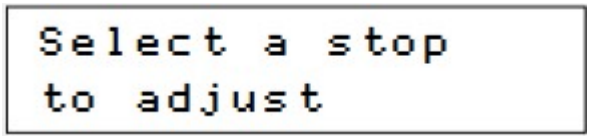
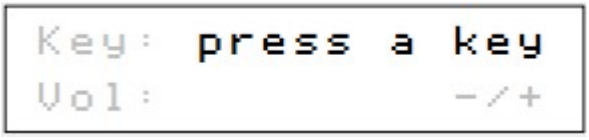
a. 調整

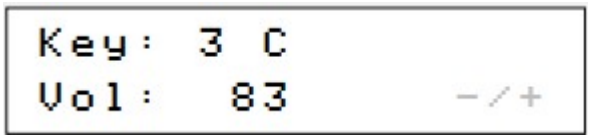
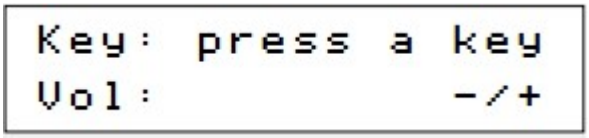
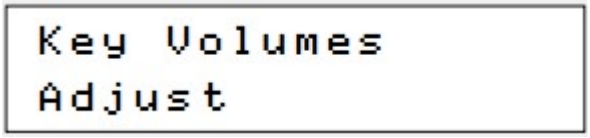
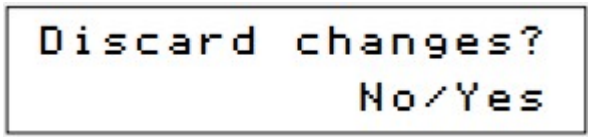
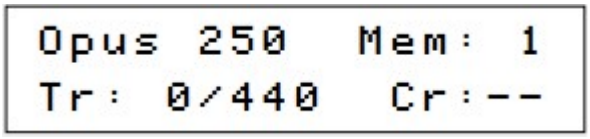
調整機能では、各オルガン様式やストップごとに、各キーボリュームを設定できます。

1. 全ストップのスイッチをオフにします。	
2. オルガン様式とバリエーションを1つ選びます。	
3. (MENU)ボタンを押します。	
4. (−)(＋)ボタンを使って画面上の「Key Volumes」機能を選びます。	
5. (ENTER)ボタンを押します。キーボリュームメニューのサブ機能がディスプレイに表示されます。	

ディスプレイに「Enter code: ----」と表示されたら、
キーボリューム機能はオルガン所有者による
暗証番号で保護されています。
オルガン所有者かディーラーに連絡して入手した
暗証番号を、キャプチャーメモリーのボタンを使って入力し、(ENTER)ボタンを押してください。



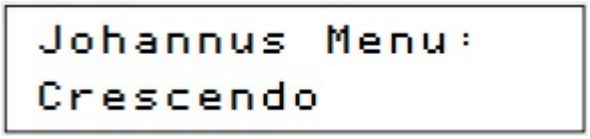
6. (ENTER)ボタンを押すと、調整するストップを選ぶ指示がディスプレイ上に表示されます。	
7. ストップをひとつ選びます。次に鍵盤を押す指示がディスプレイ上に表示されます。	

8. 選んだ1つのキーを押し続けると、ディスプレイには「Key: 」の後にはキー番号が、「Vol: 」の後にはボリューム値が表示されます。	
9. (−)と(+)ボタンを使って、目的のボリューム値に設定します。	
10. (ENTER)ボタンを押して変更した設定を保存します。ディスプレイは確認を求めるので、(−)と(+)ボタンを使って、「Yes」か「No」を選びます。	
11. (ENTER)ボタンを押して確定します。	
12. キーボリュームメニューに戻るために(MENU)ボタンを押します。	
13. 変更を保存していない場合は、ディスプレイに「Discard changes?」と表示されます。変更を破棄する場合は(−)と(+)ボタンを使って「Yes」を選び、(ENTER)ボタンを押し、以下のステップ17に飛びます。	
14. 変更した設定を保存する場合は、(−)と(+)ボタンを使って、「No」を選び、(ENTER)ボタンを押します。	
15. (ENTER)ボタンを押します。ディスプレイは確認を求めてきます。	
16. (−)と(+)ボタンを使って、「Yes」を選び、(ENTER)ボタンを押して確定します。	
17. (MENU)ボタンを3回押して、ヨハネスメニューを出ます。	
別のキーを押したり、別のストップを押したりすることで、複数のキーボリュームを変更することができます。	

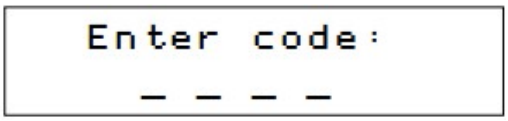
b. 1ストップのリセット

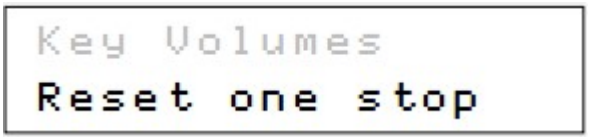
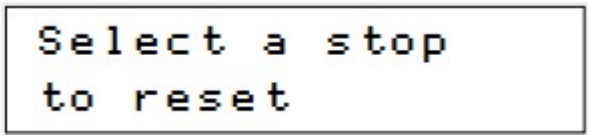
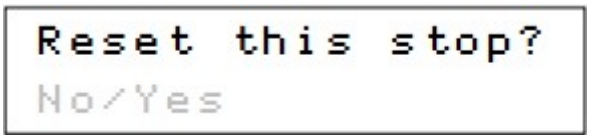
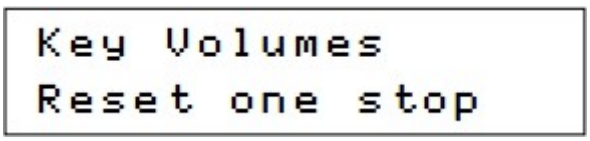
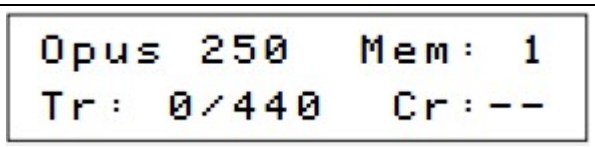
サブ機能「1ストップのリセット」は1つのオルガン様式とバリエーションについて、1つのストップのキーボリュームを工場出荷時の状態にリセットすることができます。

1. 全ストップのスイッチをオフにします。	
2. オルガン様式とバリエーションを1つ選びます。	

3. (MENU)ボタンを押します。	
4. (−)と(+)ボタンを使って、ディスプレイ上の「Key Volumes」機能を選びます。	
5. (ENTER)ボタンを押します。キーボリュームメニューの最初のサブ機能「Adjust」がディスプレイに表示されます。	

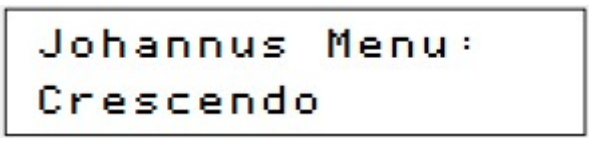
ディスプレイに「Enter code: ----」と表示されたら、
キーボリューム機能はオルガン所有者による
暗証番号で保護されています。
オルガン所有者かディーラーに連絡して入手した
暗証番号を、キャプチャーメモリーのボタンを使って入力し、(ENTER)ボタンを押してください。



6. (−)と(+)ボタンを使ってディスプレイに「Reset one stop」を表示させます。	
7. (ENTER)ボタンを押すと、ディスプレイにリセットすべきストップを選ぶ指示が表示されます。	
8. 1つのストップをオンにします。確認を問う画面が表示されます。	
9. (−)と(+)ボタンを使って(No)か(Yes)を選びます。	
10. 確認してキーボリュームメニューに戻るには(ENTER)ボタンを押します。	
11. (MENU)ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

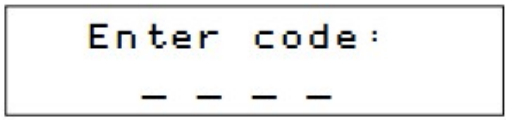
c. 全ストップのリセット

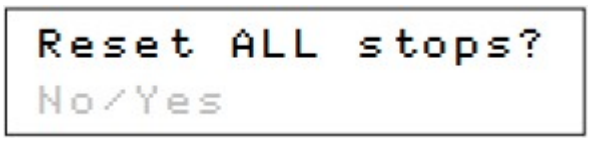
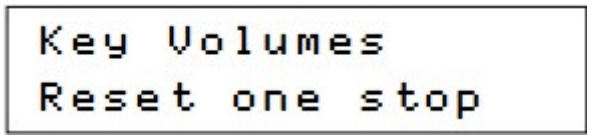
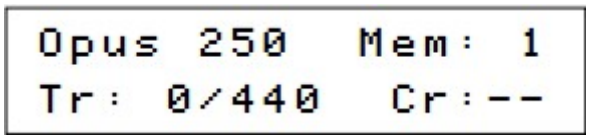
サブ機能「全ストップのリセット」は1つのオルガン様式とバリエーションについて、全ストップのキーボリュームを工場出荷時の状態にリセットすることができます。

1. 1. オルガン様式とバリエーションを選びます。	
2. (MENU)ボタンを押します。	

3．(−)と(+)ボタンを使って、ディスプレイに「Key Volumes」を表示させます。	
4．(ENTER)ボタンを押します。キーボリュームメニューの最初のサブ機能「Adjust」がディスプレイに表示されます。	

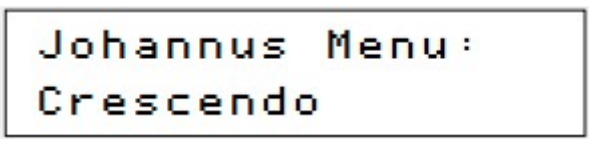
ディスプレイに「Enter code: −−−−」と表示されたら、
キーボリューム機能はオルガン所有者による
暗証番号で保護されています。
オルガン所有者かディーラーに連絡して入手した
暗証番号を、キャプチャーメモリーのボタンを使って入力し、(ENTER)ボタンを押してください。

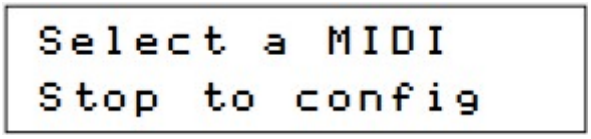
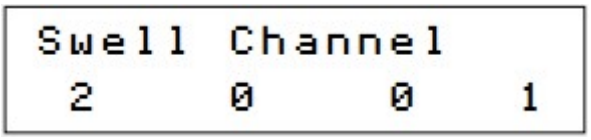
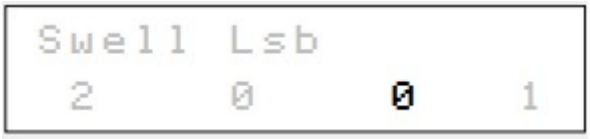
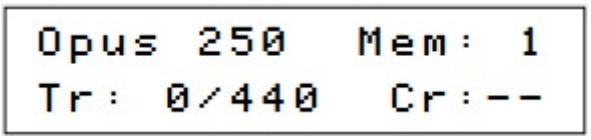


5．(−)と(+)ボタンを使って、ディスプレイにサブ機能「Reset ALL stops」を表示させます。	
6．(ENTER)ボタンを押します。確認を問う画面が表示されます。	
7．(−)と(+)ボタンを使って(No)か(Yes)を選びます。	
8．確認してキーボリュームメニューに戻るには(ENTER)ボタンを押します。	
9．(MENU)ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

5.8 MIDI設定

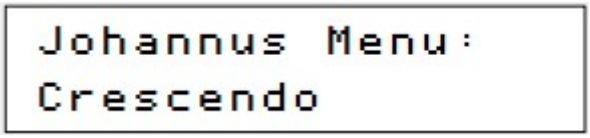
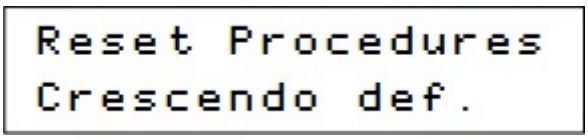
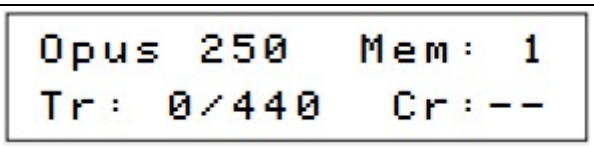
MIDI (ミディ)とは、オルガンと他の接続機器(パソコン、シーケンサー、電子楽器など)の間でデータを送受信する仕様です。プログラム可能なMIDIストップは、任意のMIDIチャンネル(1〜16)を通ってどんなモジュールヴォイスもコントロールすることができます。プログラム可能なMIDIコードは、チャンネル・MSB・LSB・音色番号の4つです。

1．(MENU)ボタンを押します。	
2．(−)と(+)ボタンを使って、ディスプレイに「MIDI Config」を表示させます。	

3. (ENTER)ボタンを押します。ディスプレイにMIDIストップを選ぶ指示が表示されます。	
4. 例えばスウェルのMIDIストップなど、設定したいMIDIストップを押して点灯させます。ディスプレイの1行目には「Swell Channel」(選んだMIDIストップとMIDIコードの最初の部分)と、2行目には「チャンネル、MSB、LSB、音色」の4つの設定状態が表示されます。	
5. (-)と(+)ボタンを使って、MIDIチャンネルを選びます。	
6. (ENTER)ボタンを押します。ディスプレイには「Swell Msb」が表示されます。	
7. 必要に応じて、(-)と(+)ボタンを使って、MSB値を選びます。	
8. (ENTER)ボタンを押します。ディスプレイには「Swell Lsb」が表示されます。	
9. 必要に応じて、(-)と(+)ボタンを使って、LSB値を選びます。	
10. (ENTER)ボタンを押します。ディスプレイには「Swell Voice」が表示されます。	
11. (-)と(+)ボタンを使って、設定したい音色番号を選びます。	
12. (ENTER)ボタンを押します。選んだ設定がメモリー内に保存されます。4種類の設定可能なMIDIコードの最初の部分がディスプレイに現れます。	
13. (MENU)ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

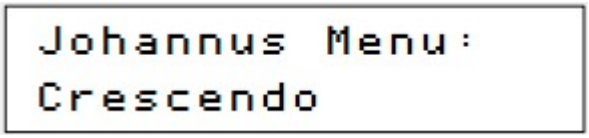
5.9 リセット手順

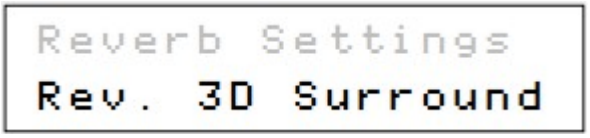
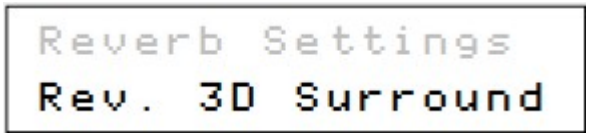
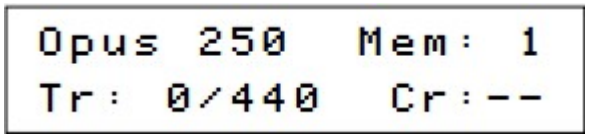
リセット手順は設定した数値を工場出荷時の初期設定状態に戻すことができます。

1.(MENU)ボタンを押します。	
2.(−)と(+)ボタンを使って、ディスプレイに「Reset Procedures」を表示させます。	
3.(ENTER)ボタンを押します。リセット手順の最初の機能「Crescendo def.」がディスプレイに表示されます。	
4.(−)と(+)ボタンを使って、リセットしたい項目を選びます。 − Crescendo def.: クレッシェンドペダルの20ステップの設定を工場出荷状態に戻します。 − Expr. Pedals: エクスプレッションペダルの設定を工場出荷状態に戻します。 − Memory default: キャプチャーメモリーを全て消去します。 − MIDI default: MIDIストップの設定を工場出荷状態に戻します。 − Preset default: プリセットメモリー設定を工場出荷状態に戻します。 − Reverb default: リバーブ(残響)の設定を工場出荷状態に戻します。	
5.(ENTER)ボタンを押します。確認を問う画面が表示されます。	
6.(−)と(+)ボタンを使って(Yes)か(No)を選びます。内容を確認し、リセット手順メニューに戻るには、(ENTER)ボタンを押します。	
7.(MENU)ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

5.10 リバーブ設定

このオルガンはAdaptive Surround Reverb ASR-12システムを装備しています。このシステムはオルガン様式やバリエーションごとにリバーブを設定することができます。リバーブの長さが変更でき、3Dサラウンド効果を実現します。

1.オルガン様式ボタンやバリエーションボタン(ROM)(SYM)(BAR)(HIS)/(SOLO)(TRIO)を押して、リバーブ変更したいオルガン様式とバリエーションを選びます。	
2.(MENU)ボタンを押します。	

3. (-)と(+)ボタンを使って、ディスプレイに「Reverb Settings」を表示させます。	
4. (ENTER)ボタンを押します。リバーブ設定の最初の機能「Reverb Program」がディスプレイに表示されます。	
5. (-)と(+)ボタンを使って、変更したいリバーブ機能を選びます。次の機能が設定可能です。Reverb Program, Reverb Length, Reverb 3D Surround	
6. 確定するには(ENTER)ボタンを押します。ディスプレイの1行目に現在のオルガン様式やバリエーションが、2行目にリバーブ機能が表示されます。	
7. (-)と(+)ボタンを使ってリバーブ機能の設定を穂変更します。	
8. 確認してリバーブ設定メニューに戻るには(ENTER)ボタンを押します。	
9. (MENU)ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

5.11 スタートアップ時の設定

下記の機能について、電源スイッチをOnしたときの設定が選べます。

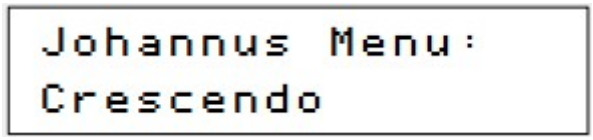
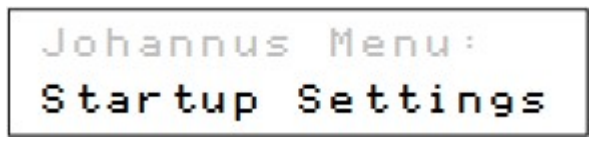
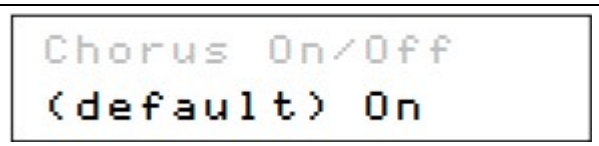
a. コーラスのOn/Off

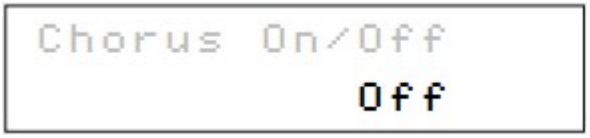
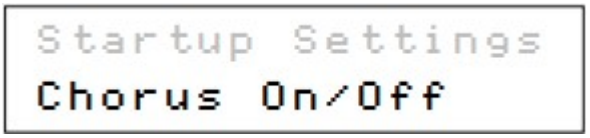
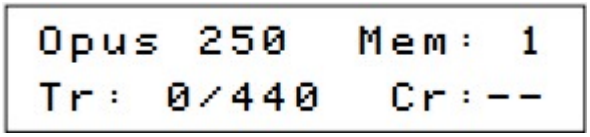
b. デフォルトのオルガン様式

c. サイドスピーカーのボリューム

a. コーラスのOn/Off

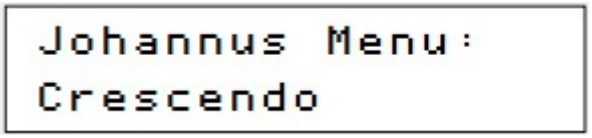
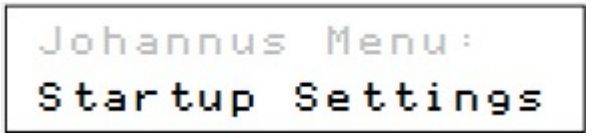
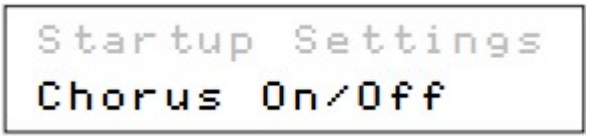
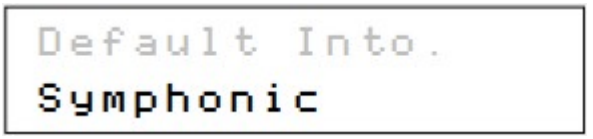
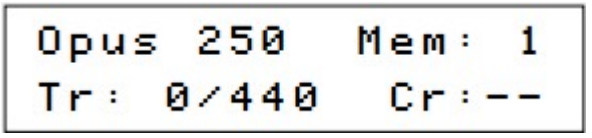
オルガンの電源Onの際のコーラスのOn/Offを設定します。

1. (MENU)ボタンを押します。	
2. (-)と(+)ボタンを使って、ディスプレイに「Startup Settings」を表示させます。	
3. (ENTER)ボタンを押します。スタートアップ設定の最初の項目「Chorus On/Off」がディスプレイに表示されます。	
4. (ENTER)ボタンを押します。現在の設定がディスプレイに表示されます。デフォルトの設定は「オン」です。	

5. (−)と(+)ボタンを使って、変更したい設定を選びます。ここでは例として「オフ」を選びます。	
6. 確認してスタートアップ設定に戻るには(ENTER)ボタンを押します。	
7. (MENU)ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

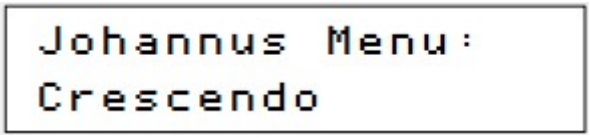
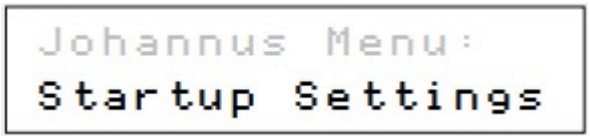
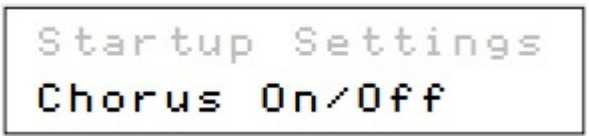
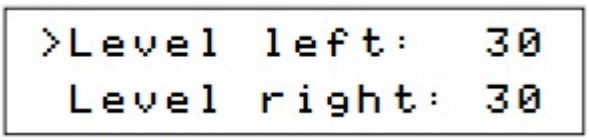
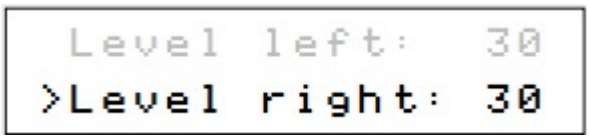
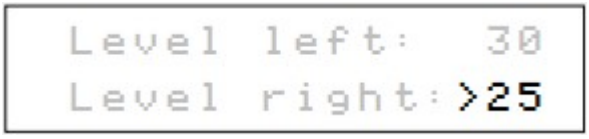
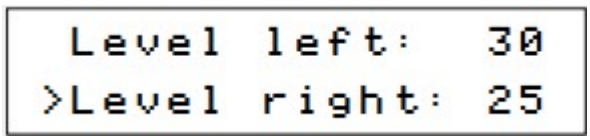
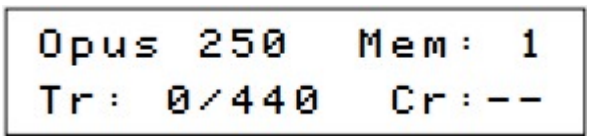
b. デフォルトのオルガン様式

オルガンの電源Onの際のオルガン様式のデフォルトを設定します。

1. (MENU)ボタンを押します。	
2. (−)と(+)ボタンを使って、ディスプレイに「Startup Settings」を表示させます。	
3. (ENTER)ボタンを押します。スタートアップ設定の最初の項目「Chorus On/Off」がディスプレイに表示されます。	
4. (−)と(+)ボタンを使って、ディスプレイに「Default Into.」を表示させます。	
5. (ENTER)ボタンを押します。現在の設定がディスプレイに表示されます。	
6. (−)と(+)ボタンを使って、希望のオルガン様式を選びます。ここでは例として「Symphonic」を選びます。	
7. 確認してスタートアップ設定メニューに戻るには(ENTER)ボタンを押します。	
8. (MENU)ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

c. サイドスピーカー

オルガンの両サイドのサラウンドスピーカーの電源Onの際のボリュームレベルを設定します。

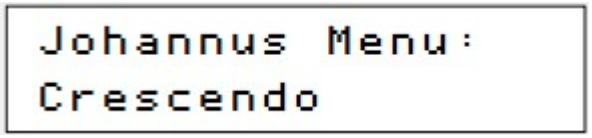
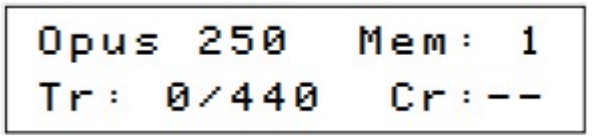
1. (MENU)ボタンを押します。	
2. (−)と(+)ボタンを使って、ディスプレイに「Startup Settings」を表示させます。	
3. (ENTER)ボタンを押します。スタートアップ設定の最初の項目「Chorus On/Off」がディスプレイに表示されます。	
4. (−)と(+)ボタンを使って、ディスプレイに「Side Speakers」を表示させます。	
5. (ENTER)ボタンを押します。左右のサイドスピーカーの現在の設定状態が画面に表示されます。	
6. (−)と(+)ボタンを使って音量を変更する左右どちらかのサイドスピーカーを選びます。ここでは例として「右側」を選びます。	
7. (ENTER)ボタンを押します。カーソルがレベルを設定する部分に飛びます。	
8. (−)と(+)ボタンを使って音量レベルを変えます。ここでは例として「25」を選びます。	
9. 確認してサイドスピーカーメニューに戻るには(ENTER)ボタンを押します。	
サラウンド音の適切なバランスを取るには、両側の音量レベルを同じ値にすることをお勧めします。例えばオルガンの片側に音を反射する面があることによって生じる音量差を補正するときなどに限って左右の音量レベルを変えてください。	
10. (MENU)ボタンを3回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

5.12 音律

音律機能の設定状態はディスプレイ上の「Temp:」の後の文字で判別できます。

下記の11種類の音律が選べます。

- 平均律　Equal (normal temperament)
- ヤングⅡ　Young II
- ヴァロッティ　Vallotti
- キルンベルガーⅢ　Kirnberger III
- キルンベルガーⅡ　Kirnberger II
- ナイトハルトⅢ　Neidhardt III
- ヴェルクマイスターⅢ　Werckmeister III
- 1/6 ミーントーン　1/6 Meantone
- 1/5 ミーントーン　1/5 Meantone
- 1/4 ミーントーン　1/4 Meantone
- ピタゴリアン　Pythagorean

1. (MENU)ボタンを押します。	
2. (−)と(+)ボタンを使って、ディスプレイに「Temperaments」を表示させます。	
3. (ENTER)ボタンを押します。現在の音律がディスプレイに表示されます。	
4. (−)と(+)ボタンを使って、希望の音律を選びます。ここでは例として「Kirnberger III」を選びます。	
5. (MENU)ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	

この設定は保存できません。オルガンの電源がオフになり再度オンになった場合、音律は自動的に平均律に戻ります。

5.13 チューニング

チューニングは最低426Hzから最高454Hzまで、ピッチを1Hzずつシフトできる機能です。

標準ピッチは440Hzです。チューニング設定状態は、ディスプレイ上で確認できます。

1.（MENU）ボタンを押します。	Johannus Menu: Crescendo
2.（−）と（+）ボタンを使って、ディスプレイに「Tuning」を表示させます。	Johannus Menu: Tuning
3.（ENTER）ボタンを押します。現在のチューニング設定状態がディスプレイに表示されます。	Tuning 440 Hz
4.（−）と（+）ボタンを使って、希望のチューニングを設定します。ここでは例として「442Hz」を設定します。	Tuning 442 Hz
5. 新しい設定を保存し、ヨハネスメニューに戻るには（ENTER）ボタンを押します。	Johannus Menu: Tuning
6.（MENU）ボタンを押して、ヨハネスメニューを出ます。	Opus 250 Mem: 1 Tr: 0/442 Cr:--

5.14 バージョン

バージョンはオルガンのソフトウェアのバージョン番号を見るための機能です。

1.（MENU）ボタンを押します。	Johannus Menu: Crescendo
2.（−）と（+）ボタンを使って、ディスプレイに「Version」を表示させます。	Johannus Menu: Version
3.（ENTER）ボタンを押します。オルガンのソフトウェアのデータがディスプレイに表示されます。	JHOXXXX OC XXXX
4.（MENU）ボタンを2回押して、ヨハネスメニューを終了します。	Opus 250 Mem: 1 Tr: 0/442 Cr:--

6 メンテナンス、トラブルシューティング、保証

6.1 メンテナンス

	メンテナンス	頻度
キャビネット	クリーニング方法は §6.1.1 を参照。	必要に応じて
鍵盤	クリーニング方法とキズの除去については §6.1.2 を参照。	必要に応じて

6.1.1 キャビネットのお手入れ

オルガンのキャビネットには家具用ポリッシュやチークオイルは使わないでください。
また、直射日光はオルガンのキャビネットを退色させる場合があります。

1. キャビネットは湿った布で汚れを落します。
2. 糸くずが出ない、乾いた布で拭き取ってください。

6.1.2 鍵盤のお手入れ

鍵盤は合成樹脂製です。

汚れを取るために塗料のシンナーやアセトンなどの侵食性のある洗浄剤は
使わないでください。

1. 鍵盤は湿った布で汚れを落します。
2. 糸くずが出ない、乾いた布で拭き取ってください。
3. 引っかきキズは車のワックスでとります。

6.2 不具合

不具合	原因	処置
足鍵盤の音が出ない。	足鍵盤のマグネットとフロントカバーの内側のリードスイッチとの接触がうまくつながっていない。	足鍵盤を正しくセットし直してください。 §2.1 参照。

6.3 保証

保証内容は保証書に説明されているとおりです。ヨハネス社の認めていない者が、オルガンを改造・修理した場合、保証は無効となります。

7 MIDI (ミディ)インプリメンテーション

7.1 MIDI インプリメンテーションチャート

JOHANNUS Organs　　Date: September 2008

MIDI Implementation chart　　Version 1.00

Functions		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changes	See MIDI Specs See MIDI Specs	See MIDI Specs Y[1]	See MIDI Specs
Mode	Default Messages Altered	Mode 3 N ＊＊＊＊＊＊＊＊	Mode 3 N N	
Note Number	True Voice	36-96 ＊＊＊＊＊＊＊＊		
Velocity	Note ON Note OFF	9nH v=1～127 9nH (v=64) 9nH (v=0)	9nH v=1～127 9nH v=1～127 9nH v=0, 8nH v=＊	Velocity ON Velocity OFF ＊=irrelevant
After Touch	Keys Channels	N N		
Pitch Bend		N		
Control Change	7 11 100/101/6 100/101/6	Y Y Y Y		General Volume Expression Pedals Pitch Transpose
Program Change	:True#	See MIDI Specs ＊＊＊＊＊＊＊＊	See MIDI Specs See MIDI Specs	See MIDI Specs See MIDI Specs
System Exclusive		See MIDI Specs	See MIDI Specs	See MIDI Specs
Common	:Song Pos :Song Sel :Tune	N N N	N N N	
System Real Time	:Clock :Commands	N N	N N	
Aux	:Reset All Controller :Local ON/OFF :All Notes OFF :Active Sense :Reset	N N Y N N	N N Y N N	
Notes		[1]Depends on number of divisions		

Mode 1: OMNI ON, POLY　　Mode 2: OMNI ON, MONO　　Y=YES

Mode 3: OMNI OFF, POLY　　Mode 4: OMNI OFF, MONO　　N=NO

7.2 MIDI 仕様

MIDI インプリメンテーションチャートの仕様

初期設定 基本チャンネル(送信/受信)

1: Great
2: Swell
3: Pedal
12: Stops

基本チャンネルの変更(送信)

MIDI設定によるプログラムが可能です。「5.8 MIDI設定」(22ページ) を参照してください。

コントロールチェンジ(送信)

Controller 7 (07h) ボリューム、可変値:40 (28h) - 127 (7Fh)
Controller 11 (0Bh) エクスプレッションペダル、可変値:55 (37h) - 127 (7Fh)
Controller 6 (06h) ピッチ、可変値:28 (1Ch) - 99 (63h)
ピッチ:64 (40h) = A = 440Hz.
ピッチの適用:
LSB 100 (64h) 1 (01h) and the MSB 101 (65h) 0(00h).
トランスポーズ、可変値:56 (38h) - 72 (48h)
トランスポーズ:64 (40h) = a = 440Hz
トランスポーズの適用:
LSB 100 (64h) 2 (02H) and the MSB 101 (65h) 0(00h).

コントロールチェンジ(受信)

Controller 7 (07h) ボリューム、可変値: 0 (00h) - 127 (7Fh)
40(28h)以下の値は、40 (28h)とみなします。
Controller 11 (0Bh) エクスプレッションペダル、可変値:0 (00h) - 127 (7Fh).
55 (37h)以下の値は、55 (37h)とみなします。

プログラムチェンジ(送信/受信)

オルガンストップ:ストップの番号とストップの並びにより決定されます。
プログラムに組める、MIDI ストップ:1～128. 「5.8 MIDI設定」(22ページ) を参照してください。

システムエクスクルーシブメッセージ(送信/受信)

各エクスクルーシブメッセージは、大部分が同じように見えます。1～7バイトと最後のバイトは全て同じです。8番目のバイトだけが変ります。ヨハネスが普通に使用しているエクスクルーシブメッセージは:F0 00 4A 4F 48 41 53 XX F7 (16進法)で、8番目の値のみが意味を持って外部に送信されます。

全ストップオフ

全ストップオフのエクスクルーシブコードは7Fです。このエクスクルーシブコードは、MIDIシーケンサーに対し"0"ボタンを長く押した場合に出力されます。全ストップオフのコードを受取った場合、楽器の全ストップが

スイッチオフとなります。

ボタンの数値

ボタンが押された場合、MIDI MOD端子からボタンの数値（例えば “PP”= 00, ”P”=01）が出力されます。これらのエクスクルーシブコードは、ヨハネスサウンドモジュール CSM 128 が接続されたときだけ意味を持ちます。

他のMIDIコード（送信）

“0”ボタンが押された場合は、’all stops off’（全ストップオフ）と全ての音量セッティング情報がMIDIシーケンサーに送信されます。

JOHANNUS 総輸入元

株式会社 河合楽器製作所

本社　古典楽器担当

〒430-8665 浜松市中区寺島町 200

Tel:053-457-1266 Fax:053-457-1303

東京オフィス

〒140-0002 品川区東品川 4-10-27

Tel:03-6718-4169 Fax:03-6712-8125